

TAKE FREE

DEMOCRACY



AUTOCRACY

ISHIKI
Magazine

pain+

「pain+(ペイント)」は様々な活動を通じ、世の中にポジティブを作る団体です。

二十十一年三月十一日に発生した東日本大震災、
および福島第一原子力発電所の事故により、
私たちの国は未だ多くの問題と大きな不安を抱えています。

多種多様なクリエイターと協力し、様々な表現による情報伝達と意思疎通を図り、
時代が抱えている「pain(痛み)」に対して「+(プラス)」の要素を与えることで、
未来を明るく彩っていききたいとの願いから、
私たちの活動を統括して「pain+(ペイント)」と呼びます。

私たちは、様々なクリエイターと共に、
作品を媒介としたコミュニケーションを図り、
人と人とを繋げることを目指します。

「やりたい事に向き合う事で大きな力が生まれる事を証明する」ため、
一人でも多くのヒトをポジティブにするべく、私たちは活動が続けていきます。

1 INDEX

2-3 LOCAL VOICE / わ田や INTERVIEW

4-5 農業回帰録 / こいちや〜ファーム INTERVIEW

6-7 COLUMN REDEMPTION SONG / Ishiki Magazine × Change The World

8-9 PAIN+ PICTURE DIARY / Change The World | NWFB

10-11 CATALOG JAPS BY SAMO

/ Ishiki Magazine × SAMO Same Old Shit Street Design

12 STAFF CREDIT

13 AFTERWORD



WWW.XEKES.JP



農業回帰録

FARMER

こいちゃ〜ファーム

- FROM YAMAGATA -

大地と向き合う粋な生業

私たちの命を繋ぐ「食物」。放射能による汚染や遺伝子組換え食品・食品添加物など、食品に関する様々な問題があるなか、「何を選び、何を摂取するのか」一人一人が考え、選択する時代が来ている。特に放射能汚染に関しては、多くの不安が付きまとうが、「産地」だけで判断してしまうのはいささか不見識と言えるのではないだろうか。そこで、東北における農業の実態と生産者の想いを知るべく、山形にて農業を営む「こいちゃ〜ファーム」代表の奥山拓さんにお話を聞いた。

こいちゃ〜ファームさんは、どのような農業をされているのですか？

こいちゃ〜ファームでは、「美味しい食材は土作りから！」をモットーに、野菜作りを行っています。自家製の有機質肥料を使用しながら、特別栽培（化成肥料・農薬は通常使用量の半以下）、無農薬栽培などの環境に優しい農業に取り組んでいます。

農業に対するこだわりや、大切に思うことなどを教えてください。

「食を通じて、農業の良さを知ってほしい！」との想いから、当農園では自家野菜を使用した料理教室の開催、食イベントへの出店等を行っています。

詳しくはFacebookで検索してみてください。

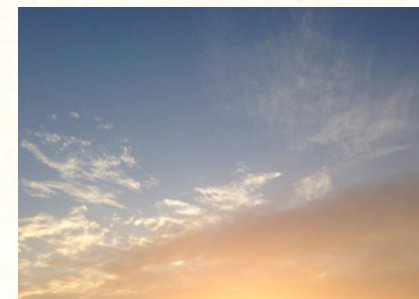
この活動を通じて、より多くの人々と繋がりをもち、互いに食べる喜びや楽しさを分かち合っていければと考えております。

東日本大震災以降、東北の食の安全が危ぶまれることへの想いや、今後の展望を教えてください。

特に震災以降、食の安全・安心が脅かされていると考える方が多いのではないのでしょうか。この背景には、食と農の乖離が拡大している、という問題があると考えております。

食の外部化、生活スタイルの多様化などが要因となり、生活者は自ら生産現場と接する機会が減っています。その結果、食卓に上る食材が「どこで、だれが、どのように」栽培したのかが分からない、といったモノが増えているのが現状です。この状況に対して、生活者がその不安を払拭するため、放射能検査などの数値的根拠に頼り過ぎないように感じます。

確かに、食材が安全とされる数値に達していること、その事実を知ることが重要です。しかし、必要以上にその数値だけで食材を見ることには疑問を感じます。大切なのは、生活者自身が生産現場に歩み寄り、自分の目で安全・安心を確かめることではないのでしょうか。そうして得られた情報は一番信憑性があり、そして何より食材の魅力を引き立てるのです。



時間がない、場所がないと感じている人は、食卓に上る一品、もしくは外食・中食を利用した際の一品がどこの国・県産なのかを意識するだけでも何かが変わってくると思いますよ。

想像してみてください。今日の前にある食材が、「どこの〇〇さんが丹精込めて作ったものだ」と感じて食べたとき、全く別の食材に変化していることを。食材を通じて人との繋がりが得られた絆が、食材のスパイスとなり、旨みに変わったのです。

「農業を通じてより多くの方々と繋がりを持っていきたい!」。そのために、こいちゃ〜ファームは美味しいと思ってもらえる食材を実直に作る努力を今後も続けていきます。



PROFILE

こいちゃ〜ファーム 代表 奥山 拓

高校卒業後、ダンスの道を志すが、日本の農業を変えるべく大学へ進学。その後、青果物流通専門会社で勤務し、実家のある山形に戻り、就農。現在は、「こいちゃ〜ファーム」の代表として、日々美味しい食材作りに取り組む。

LOCAL VOICE



TEAM

コットンプロジェクト福島

- FROM HUKUSHIMA -

英知を紡ぐ循環型の未来へ

私たちの生活において必要不可欠であり、今や多くのエネルギーを消費する人類文化の産業品「衣服」。当たり前にあるその衣服が、東日本大震災以降、深刻な被害を被った被災地の農家にとって希望となるかもしれない。被災地における「衣服産業」の実情をしるべく、福島県にて活動を続ける「コットンプロジェクト福島」代表の渡辺真紀湖さんにお話を聞いた。

コットンプロジェクト福島さんの活動内容を教えてください。

私達は、野菜等と同じように畑で育つ農作物としての綿花を、生活に必要な綿製品に加工して、少しでも自給する事ができる様に、継続的な栽培をするための環境を整える事を目的としています。

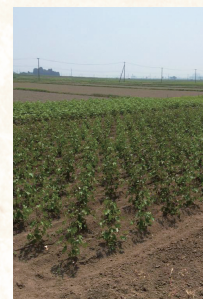
幸い、福島県は南限と北限を有する豊かな自然と気候に恵まれ、品質の高い果物や農産物の生産が盛んな地域です。県内の綿花栽培の歴史は、現在も栽培されている会津木綿にみられるように地域の特産物となった時代もありました。

今、取り組んでいる綿花栽培は、県南・県北・相馬・会津の県内4地域で、それぞれの土地の気候に合わせた工夫をしながら、自然環境に負荷をかけることなく栽培する有機農法での取組を条件にしています。

商品開発に於いては、お使いになる方の「心が満足、からだが喜ぶライフスタイル」に貢献出来る様な商品企画を心がけています。

さらに、染色には植物染料を使用し、その他の加工に於いてもなるべく環境負荷の少ない方法の中で、出来る限り心地良いと考えられる物作りに取り組みます。

当プロジェクトでは、綿花の種蒔きから収穫までのワークショップを、「種取り」や「糸紡ぎ」などの体験と合わせて開催していますので栽培や商品開発に興味のある方々の参加を募集しています。



どのような経緯で始められたのでしょうか？

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、自然災害だけではなく人災ともいわれる原発事故によって、福島の地は「汚染された地域」となり、この後の農家の方々は風評被害や実害で予想をしえない膨大な被害を被ることになりました。

震災から一ヶ月半が過ぎたある日のこと、取引先の紡績会社部長から一本の電話がありました。綿花の種を提供して被災した土地で栽培し、塩害緩和と農家の方々の支援をするという綿花プロジェクトの提案をいただいたのです。それが、『コットンプロジェクト・福島』の始まりです。

そこで、以前より進めていた福島市内での綿花栽培の実証をもとに、「福島県有機農業推進室」を通して、地域の有機農業を実践されている方々にお声をかけをし、農家の方と県内外や各方面の方々のご協力によりスタートしました。

当初は、綿花が放射性物質を吸収するのでは？と懸念されましたが、収穫後の検査の結果、安全が確認出来たので、製品化を進める事にしました。

これからのビジョンや、思いを教えてください。

長年のオーガニックやエコロジーな素材開発をしてきた経験を活かした物づくりを実践していますが、今後の「コットンプロジェクト福島」としては、生産するだけではなく、販売までを考えた「循環出来る仕組み」を作りたいと考えています。

INFORMATION



コットンプロジェクト福島
www.facebook.com/watabatake

REDEMPTION SONG

Ishiki Magazine



CHANGE THE WORLD
NEW AGE FES



愛知県南部に位置する三河湾、自然豊かなこのエリアにおいて、現在最も注目される街「西尾市」。

音楽やマリンスポーツが根付き、独自のカルチャーを形成するこの地で、新しいフェスが産声を上げた。

「CHANGE THE WORLD 三河」

ゴミゼロ、クリーンエネルギーによる発電を謳うこのフェスは、二人の青年の呼びかけから始まった。

Designer's Market「REALL」代表の吉崎礼央氏と Surf Shop「ISLAND SURF」店長の鈴木達朗氏。

三河地区の旗手として、様々なイベントを手掛ける彼らの想いに触れる。



地方創生の一環として立ち上がった「CHANGE THE WORLD 三河」。大型イベントには必ず付きまとう「ゴミ」と「電力」に関する問題に対して、よりクリーンで継続的なイベントの成り立ちを模索する彼らは大きな挑戦をする。「ゴミゼロ」と「エネルギーの自給」である。

「ゴミゼロ」への仕掛けとして、来場者へ「マイ箸、マイ食器、マイカップ」の持参を呼びかけ、当日のフォローとして竹の間伐材を使用した食器作りのワークショップ、そして竹粉による生ゴミ処理を行なった。

「エネルギーの自給」はライブに使われる電力を極力減らし、自転車による発電、ソーラー発電、天ぷら油の廃油による発電により全て賄うというものだ。彼らの情熱は多くの協力者を得て実現される事となるが、その過程には多くの困難があった事は想像に難しくない。

イベント当日、そこには持参した食器類で食事をし、発電用の自転車を漕ぐ人々の姿があった。特筆すべきはそれらを皆「楽しんで」行なっていた点である。彼らの仕掛けた挑戦は多くの好意を持って受け入れられたのだ。

前述の仕掛け以外にも様々な魅力的なコンテンツがあり、大盛況の内にイベントは終了した。そこに集まった人々は笑顔に溢れ、会場全体を温かくポジティブな空気が包んでいた。そしてイベント開催中も終了後もほとんどゴミを見かけなかったのは、彼らの想いが来場者にも伝わっていた証拠である様に思う。

撤収時、大仕事を終えた二人はさすがに疲弊しきっていたが、それでも最後まで関係者や来場者に笑顔でお礼を言っていた姿が非常に印象的だった。

後日、取材を行なった際、今後の展望について「イベントを経てこの土地の持つポテンシャルを感じた。地域ならではのライフスタイルを提案出来るような活動を行なっていきたい。」と話してくれた。そう前向きに語る彼らの目の輝きは、この地域の更なる可能性を感じさせるものだった。

常にアクションを続ける彼らの原動力は「関わる人々や地域に対し、新しい繋がりや発見を得る機会を与えたい」というシンプルで純粋な気持ちである。その気持ちに呼応する様に多くの人々が集まり、大きな力となっている。そんな素晴らしいコミュニティを持つこの地には是非足を運んで欲しい。きっと「素敵なお土産」を持ち帰れる事だろう。

Designer's Market REALL
〒455-0853 愛知県西尾市桜木町 3-5
TEL:0563-65-6185



ISLAND SURF
〒444-0702 愛知県西尾市桜木町 3-5
TEL:0563-65-6185





PAIN+ PICTURE DIARY

5 / 31 **CHANGE THE WORLD**
NEW AGE FES

9 / 03 **NWFB**
Nagoya Wedding & Flower Beauty Academy



「Pain+ (ペイント)」は Ishiki Magazine の発行以外にも様々な活動を行なっています。本稿では実際に行なわれた活動の一片を写真と共にお伝えします。

前項の「CHANGE THE WORLD 三河 2015」にてタップダンスとパーカッションによるライブとブース出店を行わせていただきました。

「名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院」にて、「デザインにおけるコンセプトの重要性」と題した特別授業を行わせていただきました。実例として、私たちが制作した「ポリリズムによる映像作品」である「GUNJO」の映写と、「元素記号を花に置き換え化学式の展開図を作る」というフラワーパフォーマンス「式」を行なわせていただきました。

素晴らしい機会を頂きました皆さまに、深い感謝を申し上げます。今後も「Pain+」は「表現を媒介としたコミュニケーション」を図っていきます。パフォーマンスやブース出展等のご依頼は下記サイトよりお問い合わせください。

PAIN+ WEB SITE



Flower Performance [式] with Dahlia



Movie [GUNJO] with Hoooh



Nagoya Wedding & Flower Beauty Academy
〒462-8580 名古屋市北区平安 2-15-43
TEL / 052-917-0001 webmaster@nwfb.ac.jp



bespoke flower Dahlia
〒454-0807 名古屋市中川区愛知町 19-27
contact@dahlia-bf.com



PAIN+ × JAPS BY SAMO Design



THE FLOW

Just go with the flow. It is due to the law of nature.

クリエイティブオフィス「SAMO Design」が展開するプライベートライン「JAPS」と「PAIN+」のコラボレーションTシャツを販売します。

Tシャツの売上は制作費を除き、全額「PAIN+」の活動資金となります。

SAMO WEB SITE



FACEBOOK PAGE



UTme! ACCOUNT



the dark "hinomaru"

The dark "hinomaru" can't cover.
It's fall off with time,
and it have bad influence to around.



the history of "American Stars"

America has many stars.
It's their glorious history.
Where to go?



morning flavor

Change the values.
Sun to grow the plant and peace.



C by SAMO

絵本の世界を糸で紡ぐ。
刺繍糸を使って一つ一つ丁寧に作られたアクセサリです。

minne / C BY SAMO





ASHIOTO



PLANNING
pain+

久保 群青
DIRECTOR/EDITOR

伊藤 聡浩
DIRECTOR/DESIGNER/EDITOR

小谷野 健太
DESIGNER

小野 カロリーナ
DESIGNER

yumico michikusa
EDITOR

Shinya Yokoyama
PHOTOGRAPHER

山下 恭平
PHOTOGRAPHER

印刷協力
踊心

SUPPORT MEMBER

上村大輔
中川真吾
安井英貴
林準一
大音和弘
坂東邦明

取材協力 / 写真提供

奥山拓
わ田や
吉崎礼央
鈴木達郎
堀義人
中山貴踏

THANKS

田中浩司
沼尾英俊
居川信彦
岩根卓弘
中嶋孝明
西村豊弘
藤田寿正
山口富祐樹
横田亨
脇坂直樹
久保賢志
大和
二瓶由美子
二瓶野枝
浦上雄次
IKKEN
AKKIN
田中光太郎
NOBU
Koh Yoshida

内野洋平
七島奈緒
安立風太
Shinya Yokoyama
富安和陽
渡辺メイ
木澤智
DJ JAVA
Deejay Tetsu
柳谷翔
荒川太一
内藤隼
伊澤寛之
吉崎小夜子
浅井映博
川浦素詳
宮本貴史
1364
牧一心
長尾晃久

飯谷俊史
伊藤豊浩
佐々木繁太
梶田圭介
服部伸悟
仲野充
田浦幸司
松本悠
林道雄
原田久敬
ハラダヤスヒロ
丹下和太留
篠田宗典
澤田崇史
真野幸太郎
宮崎晃太郎
SAM
MARK
櫻大
藤堂晋司

Ono Maiko
Hideyuki Johnny
BBOY PIRANIA
BBOY ZURI
Atsushi Nachi Ito
kaeru
BLANKA
shinge2
BOUND 実行委員会
福田屋
足音 crew
430 crew
XEKE Co., Ltd.
Angle R DancePalace
Rei Dance Collection
PLEASURE GARAGE DANCE WORKS
Live & Lounge via
NPO 法人オンザロード福島事務局
BASEMENT
家族、友人、出会った全ての人々

あの目を境に意識が変わった

目を疑うような景色に生きる人々
未だ拭いきれない不安

悲しみや怒りを超えた感情

なにげない「当たり前」は軌跡の塊だったとようやく気付く

時が流れ
世の中が平静を装っても決して戻れない

それでも
揺るぎなく穏やかに自然の営みは続き
日はまた昇り繰り返す

この素晴らしい自然を守りたい
自然の中で走り回った少年時代
僕らが幼い頃の日常を次の世代にもつなげたい

積み上げられた問題に自分たちが出来ることはきっとある

毎日食べられること
かけがえのない家族や友人
生き方を選び向き合えること
日々の大切さを知り
意識は高まる

僕らにはやり直せるチャンスが残されている
まだ目指すべき光はある

一人一人が真実に意識を向け
発信し交流することできっと何かが変わる

未来は明るいと信じたい

このマガジンが皆さまの意識に触れ、進むべき未来への道しるべとなる事を願って